

山の百名花

講師 宮下 卓宏

【27】ウルップソウ

ほうれん草？小松菜？青梗菜？に似ている肉厚で青々として美味しそうな葉っぱの持ち主がウルップソウ。漢字で書くと『得撫草』読めない…。長穂に青紫色の小さな花をたくさん付けるかわいい子ちゃん。

日本では八ヶ岳と礼文島、白馬岳にしかないらしい？とっても貴重な花。さらに開花時期が梅雨時なので見るのを難しくさせていて、夏山シーズン時には既に花が終わっていることも多い。僕も何度か開花期に八ツ、白馬を歩いていて、咲いているけど、咲いていても雨が強くつてのんびり花を眺めながらの山行が出来ないことがほとんど、快晴の空の下出会えたのは1度しかないんです。6〜7年前だったと思います、白馬槍と白馬の縦走は梅雨の晴れ間に恵まれ立山連峰を始め北アルプスの展望を楽しみながらのお花畑散歩。ハクサンイチゲ、コザクラ、ウサギギクなど色とりどり。杓子岳を越え丸山周辺にさしかかると一面びっしりとウルップソウが咲いていて、バックに白馬岳

が真つ青な空に大きく聳えていました。

この夏、北アは残雪多く開花が遅れ気味とのこと、白馬三山縦走時に再び会えること期待しているんですよ。



【28】ムシトリスミレ

『虫取堇』読んで字のごとく虫を取るスミレ、いわゆる食虫植物なのだ。名がスミレと付いているけど花が似ているからでスミレの仲間では無く、分類するとタヌキモ科・ムシトリスミレ属なんだって。

食虫植物って聞くと、「気持悪い、不気味」なんて声をよく聞くけど、花はとっても綺麗なんです。日本の高山では「モウ

センゴケ類」も白く小さい可愛い花を咲かせるけど、今日はムシトリスミレの話し。

初めて出会ったのは黒部川源流でのこと。源流碑で記念写真を取り終え岩苔乗越へ向かおうと足を進めたら、濃紫色の大きなスミレが沢山咲いていて感嘆。よく見ると大きな葉っぱが濡れてテカテカ光ってる。チヨツと触るとヌルヌルで所々黒い粒状の物が、他の葉っぱに目を移すと何やら虫のよう？粒のよう？…。「これは食虫植物ではないかあ〜！」。「こんな栄養の少ない土壌で養分を得るために虫たちから得ているなんてなんか凄いな！」

この体験以来、なぜだかとっても食虫植物に惹かれてしまう僕なのです。

